

番号	部会	担当課	ご意見内容	区役所の対応・考え方
1	全体会	総務課 (総合政策)	<p>【救急搬送について】 緊急時の救急搬送については、救急要請から救急車の到着まで約10分。病院までの到着時間は約30分程度が目安とされている。 港区では従来交通や病院の立地条件の利便性から7~8分での救急車の到着が一般的であった。 しかしながら大阪・関西万博開催以降救急搬送時の救急車の到着時間が顕著に遅れていることが報告されている。なかには、開催直後の4月後半には30分もかかった事例も報告されている。 7~8月の熱中症がピークを迎える夏場において、適切な対応をご準備いただきたいと考える。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 当区では回答出来かねます内容のため、本ご意見内容を所管する消防局より次のとおり回答をいただいております。 【消防局回答】 4月中旬以降の救急車が救急現場に到着するまでの平均時間は昨年と同時期と比較し、特に大きな変化はございません。 当局では、夏季の熱中症等による救急需要の増大にも対応できるよう、臨時的に救急隊を増隊して体制を整えています。 なお、救急需要が逼迫した際は、不要な救急要請を控えることをホームページや公式SNSなどで発信しており、適正な救急車の利用を促しています。</p>
2	全体会	総務課 (総合政策)	<p>【令和6年度港区運営方針自己評価について】 目標、使命の項目について ・万博の開催を契機として人口増を目指すがありますが、実際に万博前と開催が始まった今の人口推移と万博終了後の想定はどのように考えているのか。 また、具体的にどういった理由で人口増に繋げると考えているのでしょうか？ ・使命について、水辺の特性や公園などのポテンシャルとあるが、具体的に何をさしているのでしょうか？</p>	<p>万博開催前と開催後の人口の増減について、大阪市推計人口のデータによれば令和7年6月1日現在の人口80,731人であり、その1年前の令和6年6月1日現在の人口が79,960人と増加傾向にあります。 大阪・関西万博は10月13日までの会期ですが、令和12(2030)年のIR開業に向けて新たな雇用(約1.5万人想定)が生み出されることを勘案すると、夢洲へのアクセスがよい港区においてこの傾向は今後も続いていくものと見込んでおり、また、住む場所として選ばれるよう関係先への働きかけも行っているところです。</p> <p>港区の水辺の特性としては、大都市・大阪の経済活動と結びついた港湾機能を有していること、また、西に開けていることから美しい夕陽がみられる等が挙げられます。具体的には、「海の玄関口」として世界一級のクルーズ客船が入港する「天保山客船ターミナル」といった港湾施設、美しい夕陽が見られる中央突堤(通称:ダイヤモンドポイント)の景観は、港区の水辺ならではのスポットであると認識しています。 また、公園のポテンシャルに関しては、緑化促進、健康増進、コミュニティ活動の推進、防災面での機能が代表的です。公園は、子どもたちの遊び場、住民の憩いの場などのコミュニティの拠点としての役割を担うとともに、災害時には避難場所としても機能します。区内に30箇所あるという利点を生かして、快適で災害に強い居住環境を創造するまちづくりを目指しています。</p>
3	安心安全・まちづくり部会	協働まちづくり推進課 (安全・安心)	<p>【令和6年度港区運営方針自己評価について】 経営課題2について ・アンケートで「災害時に地域で助け合うことができると思う」という聞き方をしているが、なぜ「思う」という設問になっているのでしょうか？経営課題3であれば、「行われている」となっていて「行われていると思う」ではないので、違和感があった確認しました。</p>	<p>平時ではなく、災害時を想定した設問のため、「思う」という聞き方にしています。 災害時に地域で助け合うことができるためには、日頃からの隣近所や地域の住民同士のコミュニケーションが必要であり、港区役所では、防災啓発の場で共助の重要性を説明したり、町会加入促進の取組みを進めています。</p>
4	子ども青少年部会	保健福祉課 (子育て支援)	<p>【令和6年度港区運営方針自己評価について】 経営課題4について ・低年齢児の保育所入所の確保とあるが、実態としてニーズに対して、具体的な数値として確保されていて実際に何人が対応できていて、逆に何人が対応できていないのでしょうか？実際に区内では難しいので、他区に行っている方の話を聞くことが何度かあったので、確認できれば助かります。 アンケートの「子育てし易い」とあるが、具体的にその様な理由により子育てし易いと感じているのでしょうか？</p>	<p>保育所一斉入所(4月1日)の状況で申し上げますと ・0歳児が、申し込み者82人に対し、67人が入所、15人が未入所 ・1歳児が、申し込み者172人に対し、114人が入所、58人が未入所 ・2歳児が、申し込み者76人に対し、68人が入所、8人が未入所となっており、0歳~2歳で合計81名の児童が未入所となっています。この81名には育児休業中の方やすでに保育所に入所をされている方も含まれていますが、少しでも未入所児童を減らすことができるように、関係局と連携し取り組んでまいります。 また、アンケートの「子育てし易い」と感じている理由につきましては、それぞれの所感による部分もありますが、「子どもが遊ぶ公園がある」や「保育園や学校、医療施設が近くにある」などが考えられますが、育児に関する相談窓口やサポート、子どもに関係するイベントが充実しているなども重要であると考えています。区役所としましてもこれらの情報を提供をさせていただきながら、少しでも子育てがし易いと感じていただけるよう取り組んで参りたいと考えています。</p>

番号	部会	担当課	ご意見内容	区役所の対応・考え方
5	安心安全・まちづくり部会  全体会	【区内3エリアについて】 協働まちづくり推進課 (エリア開発推進)  【次世代を担う産業創出について】 総務課 (総合政策)	【令和6年度港区運営方針自己評価について】 経営課題5について ・区内3エリアの魅力について、具体的に何がどの様に魅力があると考えているのか？ ・課題認識に、次世代を担う産業創出を推進とあるが、具体的にどの様な内容・事項についてなのか？	【区内3エリアについて】 東部エリアにつきましては、JR大阪環状線とOsaka Metro中央線が接続する弁天町駅がエリアの中心にあり交通利便性が高く、また大阪ベイタワーや港区土地区画整理記念・交流会館、大阪みなと中央病院などの都市機能が集積しているなど、都市居住の持つ利便性の高さが主な魅力と考えております。今後は、市岡商業高校跡地の活用などにより、都心と湾岸をつなぐ交通結節点としての立地を最大限に活かした都市機能の強化とにぎわい・魅力の創出を図っていきたくと考えております。 中部エリアにつきましては、エリアの中心に大規模公園である八幡屋公園や中央体育館等があり、地域住民の憩いと癒しの場となっているなど、良好な住環境を形成していることが主な魅力と考えております。今後は、八幡屋公園を中心としたエリアの魅力づくりと良好な地域コミュニティをベースとした八幡屋商店街等の活性化の取組との相乗効果により、エリア全体のリ・ブランディング※を進め、特に若い世代や子育て層が魅力を感じ定住する流れを生み出していきたいと考えております。 西部エリアにつきましては、大型クルーズ客船が寄港する大阪の海の玄関口として、令和6年5月に建替えられた天保山客船ターミナルをはじめ、海遊館や天保山マーケットプレースなど、国内外から多くの人々が訪れる大阪を代表する観光集客地である点が主な魅力と考えております。今後は、IRや万博跡地の開発などベイエリアで展開される大規模開発等と連携した新産業の創出や子育て層に選ばれる教育環境の充実など、次世代型のまちづくりを推進することにより、訪れたいエリアとしての魅力を高めていきたくと考えております。 ※リ・ブランディング：今ある地域資源等を活かしながら、新しい時代や区民ニーズに適合したまちへと再構築することにより、魅力をさらに高めること。
				【次世代を担う産業創出について】 港区はものづくり企業が集まる地域である一方、後継者不足や経済変化により事業所の数が減少しています。しかし、技術とアイデアを活用した新たな製品開発につなげる事業者間での連携で町工場のもつ力を発揮する取組みが進んでいます。 このような連携を後押しすることで、社会変化に対応した産業の創出を図り、地域資源や人材を活かしてまちのにぎわいを生み出し、地域活性化を実現することが必要であると考えています。 また、令和7年6月には当区と一般財団法人港産業会青年部会イノベーションポート200において事業連携協定を締結し、課題解決に向け同団体との取組みを進めていきます。